

部長会議付議事案書（報告）

（令和5年2月1日）

提案課名 教育指導課

報告者名 丸野 研二

<p>事案名</p>	<p>ヤングケアラーに関するアンケート結果について</p>	<p style="text-align: center;">(有) 資料 無</p>
<p>提案趣旨</p>	<p>ヤングケアラーの実態を捉え、今後の支援策等を検討することを目的にアンケートを実施しましたので、その結果について報告するものです。</p>	
<p>概要</p>	<p>1 実施期間 令和4年9月15日～10月7日</p> <p>2 実施手法 市立中学校3年生に対しICT端末により実施。回答は無記名とし参加は任意</p> <p>3 回答者数及び回答学校 1,083人／1,352人（回答率80.1%） 市内9中学校</p> <p>4 質問内容 (1) 世話をしている家族の有無。また、世話をしている生徒がきつさを感じているかについて (2) (1)できつさを感じていると答えた生徒の状況や必要としている支援等について (3) ヤングケアラーの認知度及び自身がヤングケアラーに該当するかについて</p>	
<p>経過</p>	<p>令和4年 5月 令和4年度第1回ヤングケアラー庁内打合せ会で県及び県内市町村の取組状況の確認</p> <p>〃 8月 第2、3回庁内打合せ会で教育委員会がアンケートを実施することを決定</p> <p>〃 9月～10月 アンケート実施</p> <p>〃 10月 第4回庁内打合せ会で調査結果の取りまとめ</p> <p>〃 11月 第5回庁内打合せ会で調査結果の取りまとめと公表の仕方の確認</p> <p>〃 12月 定例教育委員会会議にてアンケート結果報告</p>	
<p>今後の進め方</p>	<p>令和5年2月16日 議員連絡会に報告及び市ホームページに掲載 アンケートの結果をヤングケアラー庁内打合せ会での議論に生かすとともに、各校の教育相談コーディネーターとスクールソーシャルワーカーが連携してヤングケアラーの実態把握を随時行っていく。</p>	

ヤングケアラーに関するアンケート結果について

令和5年2月1日

秦野市教育委員会

(ヤングケアラー庁内打合せ会)

1 概要

本市では令和3年度から「ヤングケアラー庁内打合せ会」を関係する11課で開催し、国や県の情報の共有、研修の実施、周知への取組を行ってきました。

教育委員会では、ヤングケアラーの実態を捉え、今後の支援策等を検討していくための基礎資料とすること、並びに義務教育最終年度となる中学校3年生への周知を徹底するため、校長会とも協議しアンケート調査を実施しました。

今後は庁内打合せ会での議論に生かすとともに、各校の教育相談コーディネーターとスクールソーシャルワーカーが連携してヤングケアラーの実態把握を随時行っていくものです。

2 実施手法

市立中学校3年生に対し、ICT 端末により実施。なお、調査に当たっては、生徒の精神的負担を考慮し、回答は無記名とし、参加は任意としています。

3 アンケート結果

- (1) 実施日 令和4年9月15日～10月7日
- (2) 回答総数 1,083人/1,352人 (回答率80.1%)
- (3) 回答学校 市立中学校9校
- (4) アンケート結果

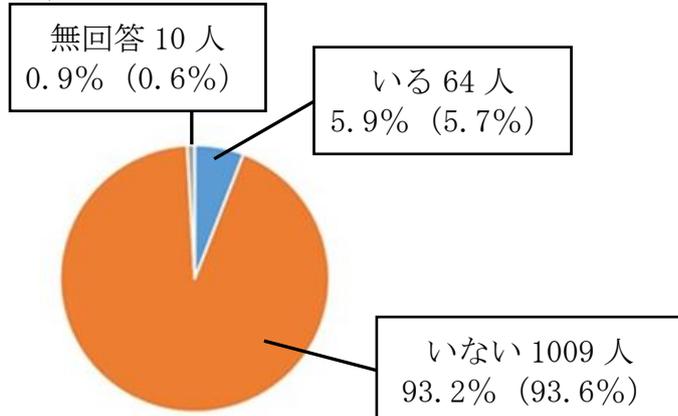
※ () 内は国が中学校2年生を対象に令和2年12月に実施した調査結果。

設問1：全員が回答

【世話をしている家族がいるか】

1 いる 64人 5.9% (5.7%)

2 いない 1,009人 93.2% (93.6%)



設問2：設問1で「いる」と答えた全体の5.9%（64人）が回答

【世話にきつきを感じているか】＜複数回答＞

1 特に感じていない	47人	73.4%	(60.5%)
2 時間的余裕がない	11人	17.2%	(16.0%)
3 精神的にきつい	9人	14.1%	(15.0%)

設問3：設問2できつきを感じていると答えた17人（回答総数1,083人中1.6%）が回答

【世話を必要としている家族】＜複数回答＞

1 きょうだい	16人	94.1%	(61.8%)
2 父母	6人	35.3%	(23.5%)
3 祖父母	5人	29.4%	(14.7%)

【世話をしている頻度】

1 ほぼ毎日	8人	47.1%	(45.1%)
2 週に3～5日	4人	23.5%	(17.9%)
3 1か月に数日	3人	17.6%	(4.7%)

【やりたいができていないこと】＜複数回答＞

1 自分の時間が取れない	7人	41.2%	(20.1%)
2 宿題・勉強の時間が取れない	6人	35.3%	(16.0%)
3 友人と遊ぶことができない	3人	17.6%	(8.5%)

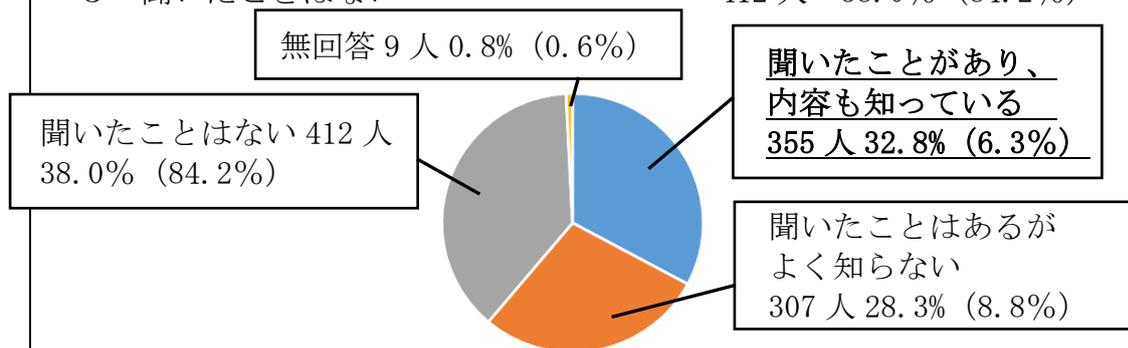
【必要としている支援】＜複数回答＞

1 特にない	5人	29.4%	(45.8%)
2 経済的な支援	3人	17.6%	(9.4%)
2 学習のサポート	3人	17.6%	(21.3%)

設問4：全員が回答

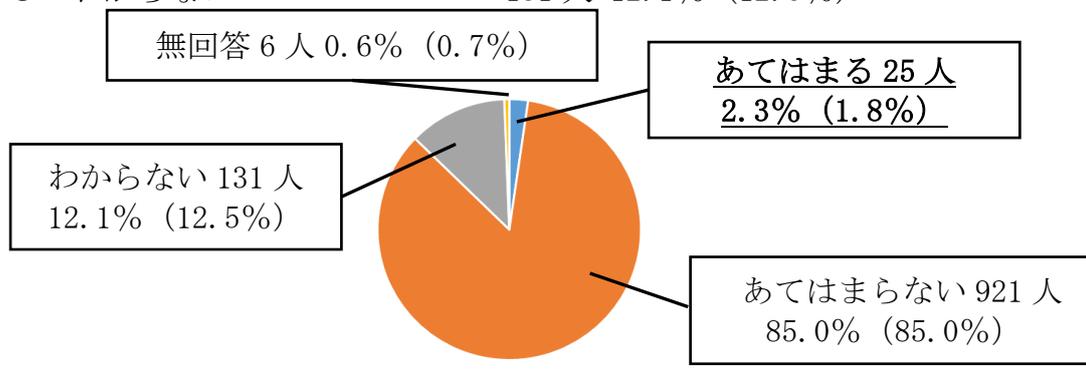
【「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか】

1 聞いたことがあり、内容も知っている	355人	32.8%	(6.3%)
2 聞いたことはあるがよく知らない	307人	28.3%	(8.8%)
3 聞いたことはない	412人	38.0%	(84.2%)



【自分はヤングケアラーにあてはまると思うか】

1	あてはまる	25人	2.3%	(1.8%)
2	あてはまらない	921人	85.0%	(85.0%)
3	わからない	131人	12.1%	(12.5%)



4 アンケート結果の考察

今回の調査では、本市の市立中学校3年生のうち、世話をしている家族がいる割合は国とほぼ同程度の 5.9%で、およそ17人に1人の割合となりました。

また、ヤングケアラーを「聞いたことがあり、内容も知っている」という認知度について、本市の回答率は 32.8%と、国の 6.3%より高い結果となりました。これは、国の調査が令和2年12月時点のものであるため、全国的にヤングケアラーに対する理解が進んだ等の要因も考えられます。

そして、自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した生徒は国と同程度の 2.3%となっています。

一方、ヤングケアラーかどうか「わからない」と回答した生徒は 12.1%おり、ヤングケアラーの自覚がない生徒もいることが推測されるため、引き続きヤングケアラーの周知を進める必要があると考えています。

本調査は、設問の内容を正しく理解及び回答ができる中学3年生を対象に実施しました。この結果をもって、小学生を含めた児童生徒に必要な支援が届くよう、関係機関との連携はもとより、不登校支援の中核を担う教育研究所の機能強化やスクールソーシャルワーカー等、専門家の活用を進めてまいります。